

R3

命について考える日（8月）

東京パラリンピックが始まりました。毎日テレビで放送されているので、見ている人もいるでしょう。

私は、この週末に車いすラグビーの放送を見ていました。すると、車いすに乗った筋骨隆々の選手が車いすをガンガンぶつけながらボールを運んでいる様子に驚いて、見入ってしまいました。ぶつかる勢いが激しくて、車いすがひっくり返ってしまうほどで、まさに、コート上の格闘技でした。

そのとき気づいたのですが、筋骨隆々の選手に混じって女子選手が1人、車いすを巧みに操って、負けじと激しく動き回ったり、車いすを激しくぶつけたりして、相手の行く手を阻んでいました。びっくりして調べてみると、これが、倉橋香衣（かえ）選手だったのです。

倉橋選手は、大学でトランポリンの競技をしていたのですが、3年生の時に、練習中に空中で回転する技を失敗し、頭から落ちてしまいました。診断は、頸髄損傷でした。翌日、折れた首の骨を固定する手術を受けましたが、ダメージがひどく、手足のまひは避けられませんでした。「集中治療室に入っていた時、家族らは“死ぬかもしれない”」とまで聞いていたそうです。

しかし、この倉橋選手のすごいのは、「起きてしまったことは仕方がない。失ったものを嘆くより、これからできることを探した方がいい」と考えたところです。

ベッドから頭を上げられた、座れるようになった、体を起こして友達と喋られる、字が書けるようになった、手紙が書けるようになった、ご飯を食べることができたとか、一つ一つできるようになることが楽しかったそうです。工夫すればいろいろできるんだと頑張ってリハビリに取り組みました。そして、車いすラグビーに出会い、その激しさに魅了されて、この競技を始めることになったそうです。

事故で体の機能を奪われても、リハビリが厳しくても、涙をはねのけて日本代表への道を切り開いた倉橋選手。本当にすごいなと思います。昨日の3位決定戦では試合に勝って銅メダルを獲得しました。

パラリンピックは今から70年前頃に始まりましたが、“パラリンピックの父”と呼ばれるイギリスの病院の医師、グットマン博士は、こんな言葉を残しています。「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」

倉橋選手だけでなく、どの競技に参加している選手も、その言葉通りの生き方をし、想像を超えるような努力をし、パラリンピックに挑んでいるのだと思います。

皆さんも、このパラリンピックで頑張っている選手の様子を是非見てほしいなと思います。そして、選手達から多くのことを感じて、学んで欲しいと思います。